

2017年6月11日(日)

説教:「善をもって悪に勝ちなさい」

聖書:ローマの信徒への手紙12:17~13:10

今、国会では「共謀罪」法案が審議中である。この法案は戦前にあった「治安維持法」に非常によく似ている。治安維持法は国体保持のため天皇制国家づくり、また 1941 年に改正され、国家が戦争が出来るように戦争の邪魔をするものを排除するための法律としてあった。1941 年という年は真珠湾攻撃を仕掛け、第二次世界大戦勃発となった年である。今や 2020 年の東京オリンピックを掲げ、安倍首相は「この法(共謀罪)がないと東京オリンピックは開催できない」などと言う。オリンピックは様々な企業にとって金儲けのチャンスである。そのオリンピックを人質にとって国民を操るように法案の正当性を打ち出している。この「共謀罪」は、現代の治安維持法であり、国家にはむかう者を捕らえやすくする法律であることはまぎれもない事実。辺野古の新基地建設阻止のための座り込みも、国家政策の批判として見做され、法的処罰も成されて行くであろう。

《人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。》(ロマ 13:1)この意味は、国家政府の言いなりになりなさいということか？歴史的に見るならば、あの ナチス・ヒトラーにも従えというのか？このような箇所から教会によっては、だから政治には無関心でいい、クリスチャンは政治にもものを言っははいけないと言出す人もいるが、この「上に立つ権威」に対する対応については、この箇所の前後を見て行く必要がある。12章21節には、《悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。》とある。権威を握る者、権力を保持する国家というものは、時に悪魔化して行くもの。悪魔化している状況に対しては、「善をもって悪に勝ちなさい」と聖書は教えている。そして13章8節以下には、《互いに愛し合うこと…隣人を自分のように愛しなさい》と教えている。

あの黒人解放運動に取り組んで来られたキング牧師は、まさにそのようにして、国家権力に善を持って立ち向かった人である。決して白人を憎んだのではない。差別する白人に対しては徹頭徹尾愛した。黒人を迫害するような白人に対して気の毒に思うように愛し、貧しい考え方を憐れんだ。

最後に、この「上に立つ権威」者の最大の権威者とは、イエス・キリストの他にいない。

全てのものの上に立つお方は、イエス・キリストである。そのイエスに私たちは全力を持って従う者でありたい。(神谷)